広報
おおだて
2月号（No. 199）

住民登録
1月1日現在

	前月比
人口 74,670	(− 78)
男 35,718	
女 38,952	
世帯数 19,983	(+20)

◆ 編集と発行 ── 大館市役所（電話）2－1212
◆ 発行年月日 ── 昭和49年2月1日
◆ 発行日 ── 毎月1日
広報紙は，行政協力員を通じて全世帯に配布しています。届かなかったり，配布が遅いときは，総務課秘書広報係へご連絡ください。
◆昭和43年3月1日第3種郵便物認可（1部5円）

圏域の「火の守り」意気新たに……

広域消防本部根下戸へ移転

昨年12月25日の比内，田代の両分署の完成につづいて，1月16日，大館周辺広域市町村圏組合の消防本部（署）庁舎が完成し，翌17日から新庁舎に移転したことによって広域常備消防がいよいよ本格的なスタートをきりました。

昭和47年7月，大館市と隣接する比内町，田代町とで広域市町村圏の設定を受け，その事業の一つとして広域消防体制の確立をすすめてきたところであるがこれらの準備事務も順調にすすみ，翌48年4月1日には広域常備消防を発足させ，以来，わずか9カ月足らずで本部，分署の各庁舎を完成するなど，広域消防は，いままでにない新しい陣容と機動力の中で，新しい歴史の1ページをくり広げようとしています。

＜87年の歴史の中で……＞

ここで本市消防の歴史をふり返ってみると，本市消防の元祖といえる町役消防組が設置されたのは明治20年1月である。（大組と称して組員37人をもって組織された）

以来，昭和14年3月まで消防組としてその名称がつづいたが，昭和14年4月，警防団令公布施行によって，警防団に改組，4分団900人を擁し，消防部警防部，防毒部の3部制組織とした。

その後，昭和21年7月になって，警防団を廃止して消防団の改組，団員676人で再出発，そして，昭和23年3月には，消防組織法施行により消防本部と消防署が設置され，昨年4月，広域消防の発足に伴ない，本市消防本部は25年にわたる歴史の幕をとじた。

また，消防署設置当時から，消防署の建物は現在の銀映（田町）付近にあったが，昭和27年10月旧大館町役場（現秋北ビルの所）に仮移転，市役所庁舎ができた昭和29年12月に市庁舎に併設され，赤い消防自動車で子どもたちの人気の的となっていた市役所の消防署も，1月17日から根下戸町に移転，新たな意気のもとに一市2町の火災予防と消火活動に当たることになった。

＜昔から多かった大火＞

一方，本市では古くから大火の多いまちであったことが，消防署の記録に残されている。消防署が大火として記録している最も古い大火としては，寛永17年（1,640年）の中城付近で300戸を焼失したのを筆頭に，寛文9年（1669年）の御成内町付近の500戸，延宝4年（1676年）の中城付近で700戸それぞれ焼失した大火があって，以後本市の大火は留まることなくつづき，昭和43年の御成町2丁目大火までの約300年の間に25回もの大火を記録し，この大火で焼失した家屋等はのべ5,200戸に達し，県内一の記録をもっている。

＜近代消防への移行＞

このような歴史の中で発足した広域消防の役割りは，圏域住民の安全を守るため，極めて重要な任務であることはいうに及ばないところである。

この任務遂行のためにも，まず，人員と消防機械力の整備を図らねばならないが，常備消防力の整備5ケ年計画によって計画年度が終わる昭和52年度においては，消防職員は現有の90人から135人に，また，消防自動車も7台から12台に，救急車を1台から3台にそれぞれ増やされる一方，化学消防車と司令車の購入，消防無線電話の増設など，近代消防設備の完備によって，圏域住民の福祉向上をはかりつつ，強力な防災体制の確立のため，着々とその整備がすすめられているところです。

「火災報知機」は使えません

「早い通報，少ない損害」をモットーに昭和40年から4カ年計画で市街地に取付けた火災報知機（129カ所）は今まで早期通報に大きな役割を果してきたところです。

しかし，最近の電話加入世帯の増（現在14,262世帯が加入，市全世帯の約72％）により，火災通報の99％は119番への電話で覚知されるようになってきており，火災報知機による通報は47年，48年中を通じて1度も使用されていない状況です。

反面，火災報知機のいたずらが年々増えつづけ，この件数も毎年30件にもおよび，いたずらの都度消防車が奔走させられるなど，ムダな出動が目立ってきました。

以上のような事情，とくに，いたずら通報に見兼ね，先月の16日から当分の間，火災報知機の使用は取りやめることにしましたので，今度の火事と救急車の通報には電話をご使用くださるよう消防本部ではお願いしています。

人気集める 大館スキー場

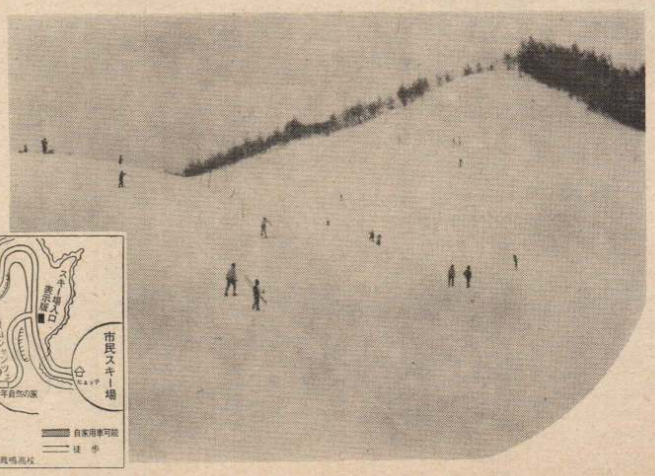
「すべったらやめられない」
「大鰐スキー場よりもすべりやすい」
「お金がかからない」

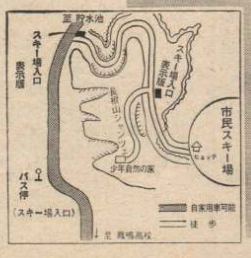
など，1月3日オープンした大館スキー場は利用者の皆さんから大変な人気を得ております。

面積42,20㎡の広大なゲレンデを誇るこのスキー場には，おおざっぱに分け，中級者向けのコースと初級者向けのコースがそれぞれ3コースあって，ゲレンデの最高斜度が30度，最低10度となっており，幼児から大人まで楽しくすべれる格好のスキー場として，おすすめできます。難をいえば，バス停から20分ほど歩かねばならない点ですが，足腰を強くするためには，この程度の歩行は必要だという専門家の話しでもあり，多少はがまんしていただく事になります。

なお，飲料水はヒュッテに準備してありますが，できるだけ各自ご持参くださるようお願いします。

遠くへ行かなくとも，大館に立派なスキー場ができました。その良さを確かめさせるためにも，一度すべってみてください。





＜スキー場行バス案内＞

運行日，毎週土曜，日曜日
運行期間，2月末日まで

バス時間

＜土曜日＞

大館駅発	ターミナル発
13.00	13.11
16.00	16.11

＜日曜日・祭日＞

9.00	9.11
13.00	13.11
16.00	16.00

◆スキー場発

13.30　16.30

日曜日は9時30分があります

※運賃　駅から鳳鳴高間は普通料金で，鳳鳴からスキー場までは無料です。